

質 問 回 答 書

入札番号：総病施 第 37 号

工事名称：平成 29 年度 静岡県立総合病院 北安東 2 丁目医師宿舎（仮称）建築工事

No	分類	関連項目	質問内容	回 答
1	施工条件	A-02	施工条件特記仕様に、電波障害の記載がありませんが、電波障害が発生した場合は、別途工事と考えますが宜しいでしょうか。	貴見のとおり。ただし、電波障害の発生時には、対策方法に係る検討について協力のこと。
2	施工条件	A-23	外構図に、土間撤去・打ち直しと記載されている部分は、現在、きれいに整備され、駐車場として使用されていますが、工事車両が右折する際には、使用可能であると考えて宜しいでしょうか。	原則、不可である。本計画は、工事車両が付近を通行したことにより、ひび割れ等が発生した場合の改修について予め計画したものである。
3	土工事	内訳書 14	（土留め施工方法について） 土留めを単管横矢板で行うと、単管の根入れ部分の N 値が小さく、水を多く含んでいる地盤である為、 H1.64m の部分において、単管が傾く可能性がございます。親杭横矢板（H 鋼またはアングル使用）にて施工した方がよろしいのではないのでしょうか。	単管のピッチを細かくする及び単管の埋込み深さを深くする等、隣地に影響を生じない施工方法により実施することとし、積算上考慮のこと。
4	防水	A-14 設計書 P29	（屋根露出防水の内訳数量について） “ASI-T1 トーチ工法 絶縁断熱工法 断熱材含む”という項目において、 215 m ² と数量が計上されておりますが、平場と立上り部を含めた数量でよろしいでしょうか。 また、含めた数量の場合、それぞれの数量をご指示願います。	貴見のとおり。数量内訳は以下のとおり。 平場部：180.3 m ² 立上り部：34.4 m ²

5	防水	A-14	(屋根断熱材について) 防水材“ASI-T1”仕様の場合、ウレタン系断熱材を使用するのが一般的ですが、“A種押出法[®]ポリスチレンフォーム保温板 3種bスキン層付 t=60”となっております。ウレタン系の断熱材での仕様でよろしいですか。	「A種押出し法[®]ポリスチレンフォーム保温板 3種bスキン層付 t=60」は誤記とし、「JIS A 9521 による硬質ウレタンフォーム断熱材 2種 1号若しくは2号 又は JIS A9511 による A種硬質ウレタンフォーム保温板の保温板 2種 1号若しくは2号の t=50 (いずれも透湿係数を除く規格に適合品)」に読み替えるものとする。
6	タイル	A-12, 14	パラペット：タイル接着剤貼り部分のタイルの仕様をご指示願います。	陶磁器質タイル (JIS 品) 50mm 二丁モザイクタイルとする。なお、外壁タイル部 (押出し成形セメント盤部) の仕様も同様の仕様である。
7	タイル	A-06	タイルの仕様の指定はございますか。	
8	木工	A-14	(1階和室の引出し式床下収納について) 形状、仕様について詳細図面はございますか。仕様についてご指示願います。	別添 A-31「家具図」により積算のこと。
9	金属	A-06	(外部仕上表、笠木の仕上げについて) (外部)仕上表の笠木(欄)に、アルミ既製品、多意匠装飾仕上塗材とありますが、塗材・色に指定はございますか。	笠木欄の「多意匠装飾仕上塗材」は、誤記で、アルミ既製品 (シルバー) の仕上げとする。
10	金属	A-12 内訳 39	(手摺部のガラス仕様について) 設計図面では、南立面図は合わせガラス、北立面図はポリカーボネートにて施工との記載がございましたが、内訳書ではポリカーボネートですべて計上されております。どちらを採用した方がよろしいでしょうか、ご指示ください。また、合わせガラスの場合は、板厚もご指示ください。	南面バルコニー手摺部は、合わせガラス (ラミカイ同等品) で、設計書の金属工事「バルコニーアルミ手摺」において積算のこと。北側通路手摺部は、ポリカーボネートで、設計書の金属工事「通路アルミ手摺」において積算のこと。 設計書において単体で計上されているポリカーボネートは、階段部のものである。

				なお、ラミカイ同等品の特殊フィルムは、「乳白」とし、積算のこと。
11	内装	A-06	(外部廊下の仕上げについて) 長尺ノスリップ塩ビシートと指示がありますが、品番の指定をお願いします。	東リ(株)のNSシート同等品とし、積算のこと。
12	構造	S-02	(鉄骨製作の業者について) (鉄骨製作の業者の)グレードを下げてもよろしいですか。	図面に記載のとおりHグレードの認定業者にて製作のこと。
13	構造	S-11	(基礎伏図について) 基礎伏図に点線で図示されているものについてご教示ください。	点線部は、建設敷地に従前建築されていた建築物の基礎及び杭の位置を示す。なお、基礎については既に解体されているが、杭については、残置されているので、施工において留意のこと。
14	構造	S-22	近隣道路状況から、鉄骨柱 L $\times$ 9520を1節物として搬入が困難な為、2節物として考えて宜しいでしょうか。	2節物としても支障ないが、2節とする場合は、スラブ面から1,000mm立ち上がった柱応力の少ない位置を接続面とすること。また、現場溶接により接続する場合は、第三者超音波検査を100%実施することし、積算上考慮のこと。